

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4570200867		
法人名	有限会社 ケアセンターみやこじま		
事業所名	グループホームふるる	ユニット名	すみれ
所在地	宮崎県都城市安久町5596番地1		
自己評価作成日	令和元年7月3日	評価結果市町村受理日	令和元年9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和元年7月24日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

近隣に畑など、のどかな場所に施設があり、のんびりとした環境の中で利用者様元気に過ごされています。利用者様一人一人と向き合い、利用者様が無理なく希望に沿ったケアが出来ればとスタッフ全員で連携図りながら日々の業務に取り組んでいます。同時にスタッフ個々のスキルが上がる様に、職場の環境改善、研修、勉強会参加の促しなど働き易い職場への取り組みも法人挙げて行なっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

のどかな環境の中で、法人本部、有料老人ホームが隣接している。2ユニット、それぞれで、飾りつけや掲示物を工夫しながら、合同で敬老会などの催しを中央のホールで行うなど、楽しみや変化のある生活が送られるよう工夫されている。地域の自治会に加入し、地域の行事への参加や地域の中学校からの職場体験の受け入れを行うなど、地域に貢献できる交流が行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	すみれ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の目に着く場所に事業所の理念を掲示し少しでも実践に繋がる様心掛けてます。理念：温もりと安らぎのある生活を支援します。	平成16年2ユニット体制になった時に作られた理念を、玄関正面と職員用トイレに掲示し、いつでも見られる状態で、温もりと安らぎを意識した実践が行えるようにしている。	理念は、開設時に作られたままになっているので、管理者、職員が一緒に事業所の意義をふまえた理念の見直しを行い、日常的に唱和等で共有して、実践につなげていくことを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の時など地域の中学校、小学校、保育園などボランティアの受け入れを積極的に行ってます。地域の公民館にも加入し地域の一員としての交流を行ってます。	地域の自治会に入会し、加入常会で事業所紹介を行い、地域の一員として行事等へ参加するなど、交流に取り組んでいる。敬老会での保育園児の太鼓演奏や中学校の職場体験等を通して地域の子どもたちと交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館長様を通じ、当施設の紹介などをさせて頂き認知症の方のご理解を得られるように努力しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しています。会議の協議内容等については、職員会議の中で報告し改善項目等あればサービス向上に活かしています。	事業所の状況報告や行事予定を知らせるとともに、出席者からの意見や要望等の話し合いの場となっている。会議の内容は、議事録にまとめ、職員会議で報告し、サービス向上に生かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度の改訂時など、集団指導を開催して頂いたり、理解に悩む事項などは担当者で直接連絡行ったりして協力をお願いします。	日常的に市介護保険課に出向き、情報のやり取りを行い、運営等で判断が難しいときは指導してもらうなど協力体制の構築に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針に基づき身体的拘束についての取り組みを行ってます。	介護保険の制度改正に伴い、「身体拘束適正化のための指針」を策定し、年3回「身体的拘束等適正化のための対策検討会」を開催している。職員は定期的に内部研修等で身体拘束をしないケアについて学び実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の権利擁護の勉強会、研修参加の促しを図ったりしてスタッフが虐待についての知識を高めてもらうように心掛けてます。			

自己	外部	項目	自己評価	すみれ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会、研修参加の促しを行い理解、周知に努めたいと思っています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にて、利用者様、家族のご理解が得られるように解り易い説明を心掛けてます。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し活用して頂き、内容によっては法人への報告、事業所内での協議を行い運営に反映出来るように心掛けてます。		意見箱や家族来訪時の会話、また年二回開催している家族会で、要望や意見を聞き、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を用い、スタッフの意見、要望などを聞いて反映できる事は実行してます。		月1回の職員の全体会議、各ユニットのカンファレンスを行い、出された意見、提案は必要に応じて法人本部に要望し、業務改善に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、働き易い職場作りの一環として意見を聞いて改善に努めています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加の促しなどを活用しスキルアップに努めています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の居宅介護支援事業所、他事業所などを通じ他事業所の情報を得て、当事業所での取り組みが可能な事項等は取り入れて事業所の			

自己	外部	項目	自己評価	すみれ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談時に本人様、家族など直接面談させて頂き、詳しく本人様の要望等を理解して入所の際に良好な関係作りが出来るように心掛けてます。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時に本人様、家族など直接面談させて頂き、詳しく本人様の要望等を理解して入所の際に良好な関係作りが出来るように心掛けてます。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に先ず当事業所にて提供するサービス内容を家族、本人へ説明を行う。それ以外のサービス内容についても提供出来る事項はその都度対応してます。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当事業所にて介護者、利用者の立場でなく生活を共に営む一員として、日々の生活の中で作業をして頂いたりして良好な関係が保てるように努めてます。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所、家族、本人との連携を図りながら本人様の生活支援に努める。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の馴染みの人や場所については、関係が途切れないように支援に努めてます。また馴染みの方については、面会などにて現状報告したり関係維持に努めてます。	家族や知人の訪問があったり、ふるさと訪問を企画し、外出・外泊するなど馴染みの人との関係継続の支援に取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がコミュニケーションを図り易い環境作りに努めてます。			

自己	外部	項目	自己評価	すみれ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院にて退所された方など、退所後も定期的に他施設、病院への連携を図り情報提供を行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いを尊重し、本人本位のサービス計画の策定が出来るように努めている。		思いの表出が困難で、意向が把握しにくい利用者に対しては、態度や表情から思いを察し、本人本位の暮らし方ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に本人様のこれまでの生活歴、環境等を十分に把握できるように情報の収集に努め実践行なってます。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所の際に本人様のこれまでの生活歴、環境等を十分に把握できるように情報の収集に努め実践行なってます。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス会議(1回/月)を活用し、職員間での意見交換を行い介護計画の策定に繋げてます。		本人・家族の意向を確認し、職員参加のカンファレンスでケア内容等について検討し、介護計画を作成している。また、定期的にモニタリングを実施し、介護計画の継続、見直しを行い、現状に応じた計画作成するよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録を活用し職員間で情報を共有しながら実践や介護計画策定に反映させてます。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族が望まれる支援について早急に対応できるように職員間の連携を図ってます。			

自己	外部	項目	自己評価	すみれ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防団、派出所などと連携を図り利用者が安全で豊かな生活が送れるように努めています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、常に連携を図りながら医療面での支援を提供しています。	本人及び家族の希望する馴染みの医療機関で不安なく受診できるように支援している。家族が、受診に同行できない場合は、職員が同行し、状態報告等の支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員、連携している訪問看護事業所との連絡、相談を密に行い看護、定期受診を行っています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、定期的に病院関係者(担当医、地域連携室)への連絡、面会などを行い利用者様の状況把握に努めています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族(身元引受人)様へ、終末期の対応について十分な説明を行い、方針を共有して支援に取り組む様に努めています。	入居時に家族の終末期の対応について書面にて確認している。利用者の状態の変化に合わせて、再度意向の確認を行い、関係者が看取りについての方針を共有して支援できるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED、急変時の対応など勉強会、研修を行いいつでも実践出来る様に心掛けてます。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施など定期的に行い、地域の消防団とも連携して緊急時に備えるよう心掛けてます。	隣接する施設との合同避難訓練やグループホーム単独で地区消防団による避難誘導の訓練等を定期的に行っている。また、物品を備蓄したり、法人本部との災害時の協力体制づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	すみれ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃、全職員が適切で温かみのある声掛けを行うように心掛けてます。		生活歴、入居までの経緯等把握し、一人ひとりの状況に応じた声掛けや働きかけを行い、人格や誇りを尊重した対応を心掛けるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様からの要望等あればなるべく自己決定できる環境作りを行ってます。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに併せ日常生活を過ごして頂ける様に支援を心掛けてます。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時などに季節感のあるその人らしい身だしなみを支援する様に心掛けてます。起床時に洗面台の鏡の前でモーニングケアを行い支援に努めてます。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳時にメニューの紹介を行ったり、職員も利用者様のテーブルにて食事を摂る様に努めてます。		配膳、下膳を一緒にしたり、利用者に応じて刻み食やミキサー食にするなど食事を楽しめるよう工夫に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食分量や水分量については毎回確認して把握に努め食事制限がある利用者様などは十分な配慮が出来るように努めています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様へ毎食後に口腔ケアの誘導を行い、常日頃より口腔状態の把握に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	すみれ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄支援については個別に行い、身体状況の変化とあれば家族、職員間にて相談を行い出来るだけ自立に向けた支援を心掛けています。		できるだけトイレで排せつできるよう排せつパターンに合わせた誘導等の支援を行っている。昼夜通して紙おむつを使用していた利用者が、日中はリハビリパンツを使用し、トイレで排便ができるようになり、食欲も増してきた例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の利用者様は常に軽運動の促しを行い、水分摂取量の調整などを行い予防に努めている。排便コントロールが難しい方は定期受診時などかかりつけ医と連携を図り便秘予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	前もって、入浴予定日は決めているが利用者様の状況を観ながら入浴の実践を行っている。		利用者の体調に合わせ、週二回入浴日を設けている。入浴を拒む利用者には声かけ等工夫し、入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活の中で利用者様の表情、状態を把握し休息、入床の促しを行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援については、確実に飲まれるまで確認しています。副作用、用法については処方箋を活用して内容の把握に努めています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の事業所内での役割については作業(洗濯干し、畳み、食器拭き、テーブル拭き)などを通して出来る方のみ支援を行っています。季節毎にドライブ、外出など気分転換等の支援を行っています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の要望、希望等あれば家族と相談し協力を仰ぎ支援を行っています。		花見に出かけたり、ドライブに連れて行くなどの支援を行っている。利用者の状態に合わせ、敷地内の庭の草取りをしたり、近くのサツマイモ畑を見に行くなど、時期に応じて外出支援を行っている。	行事やイベント等以外に日常的に外出し、外の空気、温度、匂い等、自然を肌で感じられるような散歩等ができるようになることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	すみれ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在では、金銭所持が可能な利用者様はおられず行事の中で金券を用い嗜好品の買い物をして頂く取り組みを行っています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話をかけたいなどの要望があった場合は相手先に前もって連絡して日時、時間を決め連絡取れるように心掛けています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常日頃、環境面での気配りなどを行い居心地よく過ごして頂ける様に心掛けています。ソファなどの配置など工夫しています。		室温や明るさは、利用者が過ごしやすいように適切に管理するよう努めている。車いすの利用者が多く、テーブルやソファの配置は、移動に支障が無いように配慮している。利用者の作品や写真等の飾りつけで、季節感や親しみが出るように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットホール、中央ホールなどソファを配置し共用空間にでも他利用者様と一緒に過ごして頂ける様に工夫しています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時の荷物については、自宅などで出来るだけ本人様を使い慣れた物や、馴染みの物を持って来て頂き環境が変わり不安にならないよう工夫しています。		自宅で使い慣れた家具等を持ち込み、家族の写真等を飾りなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内での手摺の設置、自立歩行される利用者様への配慮など出来るだけ安全に過ごして頂ける様に心掛けています。			